

PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

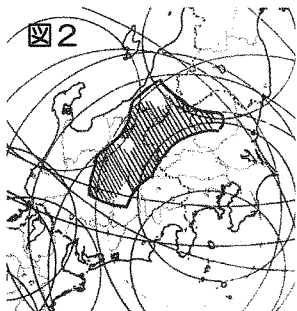
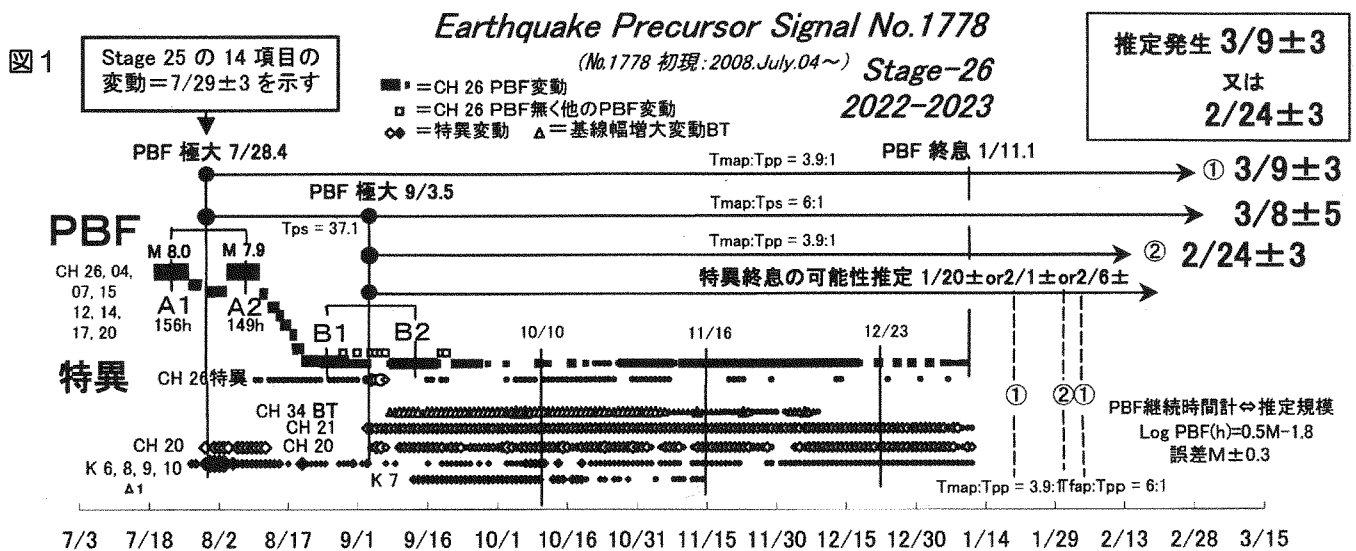
続報 No.348

2023.01/11 (水曜) 15:00 発表

八ヶ岳南麓天文台 串田 〒409-1502 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 電話 0551-38-3987 FAX 0551-38-4254

※PHP新書「地震予報」にNo.1778前兆について記したため続報公開。No.1778前兆は27年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動。しかし首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までは数日の可能性が高い。火山噴火も検知可能。これらのNo.1778前兆以外の他の地震前兆については本HPでは公開できません。E-mailまたはFAXで配信の観測情報でのみ公開しています。本観測をご支援下さる方に前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。

1778 続報 PBF は直前特異ではなく微弱継続 → 1/11.1 終息の可能性 1月中の発生否定 2022.7/28.4 PBF ツイン極大と 9/3.5 ツイン極大の関係再考 3/9±3 (or 2/24±3) の可能性



- 推定領域：図2太線内領域
斜線=火山近傍参考推定域
- 推定規模：M 8.0±0.3
- 推定時期：3/9±3 or (2/24±3)
特異変動終息時期で判断予定
- 地震種：震源浅い地殻地震
- 推定発生時刻：午前9時±3
または 午後6時±3

前続報では12月末に出現したPBFが直前特異の可能性と、まだPBF変動出現期間中の変動の可能性の2種を考えました。PBFは1/5から微弱で出現間隔も2〜3時間に一回の状態となりましたが、途切れ目なく継続し、昨日からは識別するのが困難なほど微弱化し、本日1/11の01時過ぎに完全に認識できなくなり、静穏な直線基線となりました。1/11.1終息の可能性有。このことから12月末のPBFは直前特異ではないことが明らかです。従いまして1月中の対応地震の発生は否定されることになります。

2022.7/28.4 PBF極大との関係を考えると3/9±3 発生の可能性が考え易い

今まで2022.9/3 PBF極大を重視して考えてきました。しかしステージ25の14項目が示した7/28時期の極大を現在のステージ26の前兆変動関係において無視することは不自然でもあります。PBF変動は7/28.4と9/3.5に各々ツイン極大を示し、あたかも主極大・副極大の関係にも似ています。但し過去例で主・副極大が各々ツイン極大であった例は皆無です。主・副極大間=Tpsとし、主極大〜発生をTmapとした時、Tmap:Tps比の過去例は平均3.7:1の比率が認められました。この比率は前兆変動の初現〜主極大に至る期間の1/2の期間が主極大から経過した時期に副極大が出現することを示します。群発地震では、この副極大出現時期から活動が始まります。今回のPBF極大は各々がツイン極大で過去例になく、Tmap:Tps=3.7:1±の比率も当てはまりません。しかし、7/28.4と9/3.5の間隔Tps=37.1日を倍数して示しますと、図1に記したとおり、K7の特異変動変化とも符合しており、無関係には見えません。そこで7/28.4 PBF極大に対し、本日の1/11.1 PBF終息をTmap:Tpp=3.9:1 経験則で計算しますと、3/9±3 発生の可能性が計算されます。7/28.4と9/3.5極大の間隔Tps=37.1の6倍値を7/28.4極大に加算しますと3/8±が計算できます。過去例にない比率ですが、無視はできません。特異はCH21がここ数日10時間以上静穏基線を記録するようになってきました。またCH20も数日極めて微弱な変動を示しました。この特異が図1に示す時期3パターンのいずれかの時期に終息するまで、3/9±3 発生となるか、又は9/3.5極大に対し1/11.1終息で計算される2/24±3発生となるかを判断したいと考えます。上記のとおり、3/9±の方が考え易いように思われますが、実際に観測し続報します。